

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様性 (%)	豊か・魅力 と 感じる みどりの 目 番数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現在公園の 満た不足率 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	洪水害時に おける一人 あたりの遊 憩有効面積 (㎡/人)	水害時にお ける一人あ たりの遊憩 有効面積 (㎡/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	藤折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	藤折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
地域全体		0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

## グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では建物や住宅が多く、雨水が地面にしみ込みにくい状態です。一方、畑や公園などの土がある場所ではよくしみ込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を緩和するみどり	建物や住宅が多いため、全体的に地面の温度が高いです。しかし、黒目川沿いは涼しい風の通り道になっており、斜面林など木々がある場所はクールアイランドとして、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	建物や住宅が多いため、みどりの量が少なく、二酸化炭素を吸収するチカラが弱いです。しかし、段丘の斜面林や黒目川の草地、浜崎・溝沼などの農地は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を果たしています。
生き物の生息空間となるみどり	黒目川にはたくさんの種類の生き物が生息しています。そのほかに斜面林や公園・学校の木々、小さな畑などがあり、崖の下には湧き水も出るため、まちの中にも小さな生き物のすみかがつくられています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、豊かで魅力的なみどりとして最も人気があります。ほかにも島の上公園や南割公園、畑、並木道、里山、個人の庭のみどりなども、地域の風景として親しまれています。一方で、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	浜崎から溝沼にかけて、まとまった農地が広がっています。また、泉水などのまちなかにも小さな農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。
健康づくりの場となるみどり	黒目川沿いは、ジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅の周辺や大きな通りでは歩道が整備されていますが、駅から離れた場所では十分に整備されていない状況です。
身近な遊び場となるみどり	まちなかでは、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、全体的に不足しており、特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などを遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	イベントができるような広場が足りません。新しい場所をつくることや、今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	三原では、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

1章 計画の基本的事項  
2章 みどりの現状と課題  
3章 みどりの将来像  
4章 みどりの指針  
5章 みどりの取組  
6章 地域別の取組  
7章 計画の実現に向けて  
参考資料集

## 西部地域のみどりの方針

- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 建物や道路などが多く、雨水が地面にしみ込みにくいいため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題となっています。グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりが重要になります。
- 《身近な公園の不足》 市民アンケート結果においても公園に対する満足度が低く、量と質を充実させていく必要があります。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園がほしいという声が非常に強くなっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、誰もが安全に歩ける空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《防災機能の強化》 災害時の拠点となる公園が不足しており、特に三原などでその課題が大きくなっています。
- 《市民参加のきっかけづくり》みどりの活動に参加したことがある人が少ない傾向にあります。みどりへの愛着を育み、市民の皆さんが主役となってまちづくりに参加するきっかけが必要です。

### 主な課題

#### ① グリーンインフラでまちの環境を良くする

- a. 夏の暑さを和らげたり、地下水を蓄えたりするなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- b. 公園などの公共施設において、雨水を地面にしみ込ませる機能を充実させます。また、民間事業者等が行う開発においても、雨水を貯めたりしみ込ませたりする施設をつくるよう働きかけるなど、グリーンインフラの取組を進めます。

#### ② 暮らしを支える身近なみどりをつくる・育てる

- a. 身近な公園が不足しているため、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度などの新しい仕組みの導入を検討しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の充実を目指します。
- b. 新たな道路の整備にあわせて、歩道や街路樹を充実させ、誰もが安全で快適に歩きたくなるまちづくりを目指します。

#### ③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する

- a. 公園が少ない西部地域において、黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 公園の清掃や花壇づくりなどのボランティア活動を支援し、協力して維持管理を行うふれあいの輪を広げていきます。
- c. みどりの活動に関心のある人が集まり、楽しく学べるワークショップなどを開催し、地域のコミュニティを盛り上げます。

### 主な取組

1章 計画の  
基本的事項

2章 みどりの  
現状と課題

3章 みどりの  
将来像

4章 みどりの  
指針

5章 みどりの  
取組

6章 地域別の  
取組

7章 計画の  
実現に向けて

参考資料集

# みどりの方針図



### みどりの拠点と軸

みどりの拠点

河川

みどりの軸

歩道+街路樹 (現況) (将来)

歩道

### みどりの取組

みどりの保全

特別緑地保全地区 (現況)

保護地区

生産緑地地区

公園等の充実

都市公園 (現況) (将来)

公園類似施設

公園不足域の解消検討

市民農園

面的なみどりの充実

緑化推進、農地などの保全  
雨水浸透貯留の推進 (台地面)

農地などの保全、  
雨水貯留や緑化の推進 (低地面)

駅周辺のウォークアブル空間の整備

### 現況のみどり

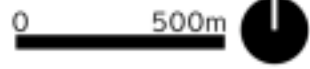
樹林地 植栽地 水田

畑地 草地 水面

湧水 地形のひだ (崖線)

市域 地域界 鉄道

安全で楽しく歩ける  
みどりのネットワーク  
の形成



1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

## 南部地域

面積	人口	緑被率				
5.3km <sup>2</sup>	53,204人	26.6%				
<b>問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)</b>	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.41 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
	d.お住いの近くの公園に満足している	0.29 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.22 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
	h.良いまちの景観がつけられている	0.34 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>				
<b>問2 豊か・魅力的と感じるみどりの</b>	黒目川(331件)、青葉台公園(116件)、シンボルロード(115件)、朝霞の森(106件)、市役所周辺(48件)、朝霞中央公園(43件)、滝の根公園(35件)、公園通り(29件)、基地跡地(15件)、朝霞駅周辺(5件)、広沢の池(3件)					
<b>問3 将来に残したいと思うみどりの</b>	朝霞の森(158件)、黒目川(154件)、青葉台公園(55件)、シンボルロード(42件)、基地跡地(34件)、滝の根公園(27件)、公園通り(14件)、朝霞中央公園(13件)、市役所周辺(9件)、朝霞駅周辺(3件)、広沢の池(3件)					
<b>問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)</b>	35.9回(市全体 30.9回)					
<b>問5 近くの公園の評価 (回答の平均)</b>	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.19 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	0.16 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.37 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.51 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
<b>問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)</b>	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.8%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(14.0%)			
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(11.8%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(8.2%)			
<b>問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)</b>	【1位】全てに参加したことがない(14.5%)		【2位】道路などの清掃活動(10.2%)			
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.1%)		【4位】身近な生き物観察やみどりの調査(6.5%)			
<b>問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)</b>	【1位】CO <sub>2</sub> の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥156)		【2位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥118)		【4位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり(¥115)			

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

# みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物多様 性の 多様性 (%)	暑がり-魅力 と感ずるみ どりの目 番数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路- 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現況公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	洪水害時に おける一人 あたりの遊 憩有効面積 (㎡/人)	水害時にお ける一人あ たりの遊憩 有効面積 (㎡/人)
南郷	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	22.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	10.2	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	太子溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	太子膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	白前隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	白前隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	白前隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	建物がが増えていますが、基地跡地や朝霞駐屯地、畑などでは、雨水がよく浸み込み、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を緩和するみどり	住宅が増えて地面の温度が高くなりやすいですが、基地跡地や朝霞駐屯地は涼しい場所になっており、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	まちが発展する中でも、基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地は、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林ではナラ枯れという病気の被害が増えていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地には、たくさんの種類の生き物が暮らしていると考えられ、生き物の移動ルートの一部として大切な役割を果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や基地跡地の周りがあるみどりの風景は、とても人気があります。公園や畑、並木道なども地域のみどりとして親しまれていますが、みどりが少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	溝沼や膝折町、本町3丁目のあたりには畑が点在しており、身近な場所で農業にふれられる環境が残されています。
健康づくりの場となるみどり	朝霞駅から基地跡地の周辺は、並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っています。一方で、歩きやすい歩道が十分につながっていない地域もあります。
身近な遊び場となるみどり	基地跡地の周辺や、和光市・練馬区に近い地域は公園が充実していますが、それ以外の地域では公園が不足しています。
にぎわいや交流の場となるみどり	朝霞の森などではイベントが開かれ、交流の場になっています。しかし、ほかの場所ではイベントができる広場が足りないため、今ある公園などを上手に生かすことが大切です。
防災拠点となるみどり	青葉台公園や朝霞中央公園など、大きな公園があるため、災害時の拠点となる場所は概ね確保できています。

1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

## 南部地域のみどりの方針

### 主な課題

- 《大規模なみどりを守り、維持する》 基地跡地などの大きなみどりは、まちの気温上昇を抑え、二酸化炭素を吸収する、まさに都市の肺のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが欠かせません。
- 《みどりのバランスを整える》 基地跡地周辺には大きな公園が集中していますが、それ以外の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの量に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くなっています。本町や溝沼では、誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 基地跡地周辺のまとまったみどり以外は、建物や道路など、水が地面に浸み込みにくい場所が多くなっています。そのため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題です。まちづくりにおいてグリーンインフラの考え方が重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大きな公園以外に、地域の皆さんが気軽に集まれるような広場が少なく、地域の人々のつながりを深める上での課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境です。これを残すとともに、将来にわたって良い状態が続くよう、管理していくことが求められます。

### 主な取組

#### ① 大きなみどりを守り、その価値を高める

- a. 基地跡地一帯の緑地は、朝霞のまちのグリーンインフラの要として、公園としての整備を進めたり、みどりが持つ様々な機能を守ったりします。
- b. 朝霞の森の周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を共有し、未来へ引き継いでいくための取組を進めます。

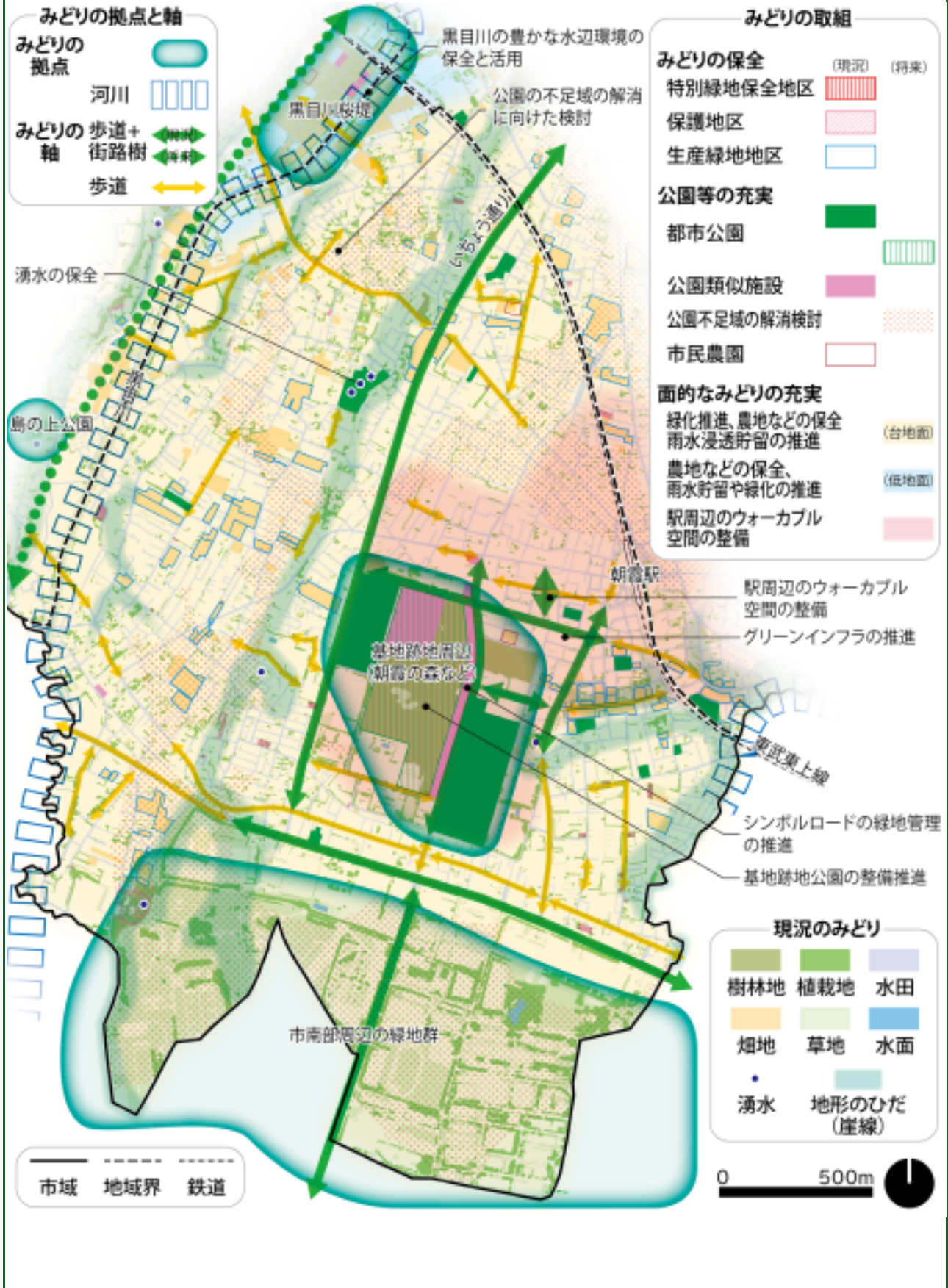
#### ② みどりの恵みを地域全体に広げる

- a. 公園が不足している住宅地において、計画的に公園等を確保できないか検討し、みどりの配置のバランスを整えます。
- b. 駅の周辺では、ウォーカブルな空間づくりを進めます。また、大きな緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みにふれられるネットワークをつくります。その際、ベンチやポケットパークなどを設け、ひと休みできる空間を充実させます。

#### ③ グリーンインフラで暮らしの安全と快適性を高める

- a. この地域には公共空間が多く、これらが水循環や暑さ対策、生き物の保全などに役立っています。引き続き、グリーンインフラの視点を大切にしまちづくりを進めます。
- b. 農地や林を守るほか、民有地における緑化や、雨水を貯めたり浸み込ませたりする施設の設置を働きかけます。また、みどりのカーテンの普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さな広場をつくるなど、コミュニティづくりにつながる取組を応援します。
- c. これらの取組により、大雨による浸水被害を防いだり、湧水を守ったり、ヒートアイランド現象を和らげたりすることを目指します。

# みどりの方針図



1章 計画の基本的事項  
2章 現状と課題  
3章 みどりの将来像  
4章 みどりの指針  
5章 みどりの取組  
6章 地域別の取組  
7章 計画の実現に向けて  
参考資料集

## コラム

### もしも台地上の農地がなくなったら、朝霞の湧水はどうなるのでしょうか。

朝霞の自然を象徴する湧水がどこから来ているのか、コンピューターシミュレーションにより地下水の流れを分析しました(参考資料編6ページ参照)。その結果、湧水のすぐ近くにある台地の地面だけでなく、数キロも離れた朝霞駐屯地や東京都練馬区のあたりに降った雨までもが、長い時間をかけて地下を通り、朝霞の湧水となって現れていることがわかりました。

### 農地がなくなると湧水はどうなるのか

近年の湧水調査によると、湧き出る水の量が減っている場所があります。原因は、雨水を地面にしみ込ませていた台地上の農地などのみどりが減ったことだと考えられています。

もし市内の農地がすべて建物やアスファルトに変わったらどうなるか。シミュレーションでは、農地が集中するエリアを中心に、地下水の水位が下がり、湧き出す水の量も減るという予測が出ました。

- 湧き出す水の量は、代官水などの周辺で、一日におよそ最大 20 m<sup>3</sup> 減る可能性
- 川に流れ込む水の量は、黒目川の末端付近で、一日におよそ最大 690m<sup>3</sup> 減る可能性

雨が少ない時期にこうした影響が重なると、湧水が完全に枯渇しまう恐れも否定できません。湧水に由来する水辺や湿地に暮らす生きものたちにも深刻な影響を与えられそうです。

### 湧水を支える農地の大切な役割

分析結果から見てきたのは、台地上の農地が湧水を維持するために重要な役割を果たしているという事実です。農地は降った雨を一時的に蓄え、ゆっくり地下へしみ込ませる機能を持っています。いわば、湧水の起源そのものといえる場所なのです。

### まち全体で雨水をしみ込ませる工夫を

朝霞の財産である湧水を守るためには、台地上の農地などみどりを守っていく必要があります。それと同時に、まち全体を雨水をゆっくりしみ込ませるスポンジのようにしていく工夫が求められます。

たとえば、雨庭をつくったり、雨水浸透ますや雨水を貯めるタンクを設置したり、地面を水が通る舗装にしたりすることです。このように雨水をゆっくり大地にしみ込ませることは、湧水を育むだけでなく、大雨の時に一気に水があふれ出す水害を防ぐことにも貢献します。

湧水を守る取り組みは、災害に強い安全なまちづくりにもつながっているのです。

## 7章 計画の実現に向けて

---

# 1 計画の推進体制

本計画の基本理念である「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するためには、市民、ボランティア活動団体、民間事業者、学校、行政など、朝霞に係るすべての人が一体となって取り組むことが大切です。本計画で位置づけた取組は、各主体が自らの役割を理解し、協力し合いながら推進していくものとします。

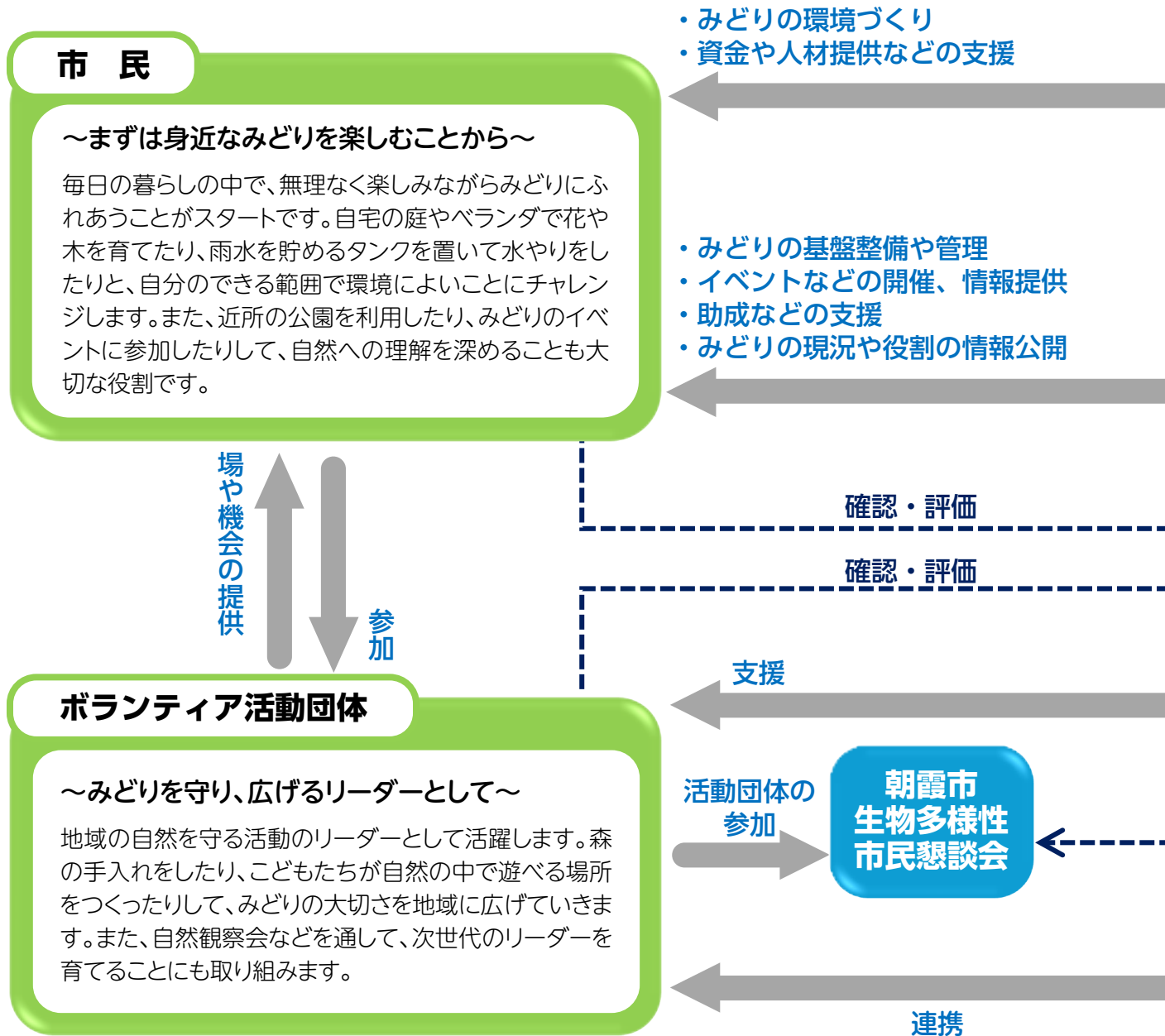
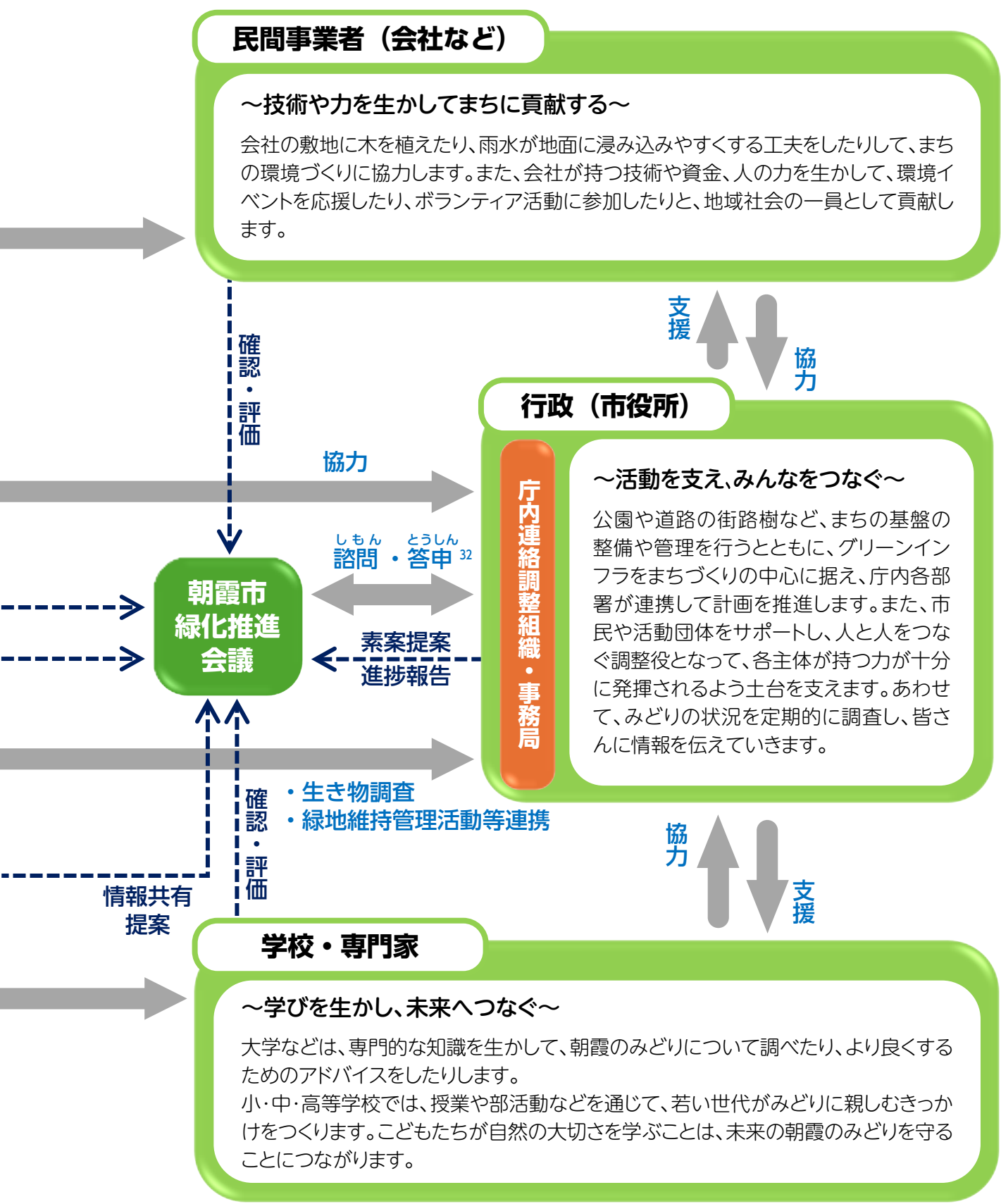


図 7-1 計画の推進体制

1章 計画の基本的事項  
2章 みどりの現状と課題  
3章 みどりの将来像  
4章 みどりの指針  
5章 みどりの取組  
6章 地域別の取組  
7章 計画の実現に向けて  
参考資料集



32 諮問は、国や自治体が、専門家や市民の代表からなる機関に意見を求めることです。答申は、諮問を受けた機関が、検討した結果を公式な意見として返すことです。

## 2 計画の進行管理

### (1) 進行管理を図るための目標設定

市民、民間事業者、行政などが共通のゴールを見据え、着実に取組を進めていく必要があります。そこで、計画の進捗を客観的に見える化し、効果的な進行管理を行うための指標として、全体目標と個別目標を掲げます。

#### ① 全体目標

まち全体のみどりに関する現況を数値で把握し、全体目標を設定します。みどりの量を示す緑地率や整備水準に加え、みどりの質や係りを示す満足度や利用頻度を指標として設定します。

表 7-1 全体目標

目標項目	目標設定の考え方	現況値 令和 7(2025) 年度末	目標値 令和 17(2035) 年度末
みどりの満足度 <sup>33</sup>	みどりの量だけでなく、みどりがどれだけ愛され、心地よい空間となっているかという質を測るため、満足度を目標とします。	+0.29	+0.30
市域に占める緑地率 <sup>34</sup>	私たちの暮らしを支えるみどりは、年々減少傾向にあります。このかけがえのない財産を守り将来へ残していくため、市全体のみどりの量を確保する目標を定めます。	21.5%	22.3%
都市公園の整備水準 <sup>35</sup>	誰もが身近にみどりを感じられる、安全で快適なまちづくりを実現するため、憩いや防災、自然とのふれあいの拠点となる都市公園の充足を目標とします。	2.13 m <sup>2</sup> /人	3.16 m <sup>2</sup> /人
公園の利用頻度 <sup>36</sup>	公園は整備するだけでなく、使われてこそ価値が生まれます。公園が利用しやすく、魅力的な空間になっているのかを、活用の視点から把握するため、利用頻度を目標とします。	30.9 回/年	31.9 回/年

33 みどりの市民アンケート調査における問 1-a[朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している]の回答(そう思う(+1.0)～そう思わない(-1.0)までの5段階評価)の平均です。

34 都市公園、学校などの公共施設の植栽地、社寺などの民有地の植栽地、特別緑地保全地区や保護地区、生産緑地などの法律や条例で守られている緑地などのすべての緑地面積が市域に占める割合のことです。

35 市内の都市公園の総面積を市の人口で割った一人当たりの都市公園面積のことです。

36 みどりの市民アンケート調査により得られる公園の年間利用回数の平均です。

## ② 個別目標(重点施策の目標)

重点施策の達成状況を測る個別目標を設定します。特別緑地保全地区の拡大や新たな公園整備といったハード面の取組から、ガイドラインの策定やデジタル活用といったソフト面の取組まで、施策ごとの具体的な目標を掲げます。計画目標は 10 年間の計画期間内で着実な実行を図るもの、将来目標は計画期間内に実行に努め、その後実現したい大きなものを掲げています。

表 7-2 個別目標(重点施策の目標)

施策の柱	重点施策	計画目標	将来目標
1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地等の担保性の向上	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約 2.7ha (現況値+0.6ha)	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約 3.6ha (現況値+1.5ha)
	(2) 良好な里山環境の維持・再生	里山管理ガイドラインの策定・運用	里山管理ガイドラインの運用による良好な自然環境の保全
1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全	雨水貯留浸透施設等の設置推進	水循環の健全化による湧水源の涵養
1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進	まぼりみなみ公園の整備 内間木公園の拡張整備	基地跡地公園の整備
	(3) 公園の維持管理の充実	公園等植栽管理指針の策定・運用	公園等植栽管理指針の運用による質の高い空間の創出
1-4 道路・河川のみどりの育成	(2) ウォーカブルな空間形成	人中心の北朝霞駅北口広場への転換	朝霞駅周辺及び北朝霞・朝霞台駅周辺のウォーカブルな空間形成
2-1 みどりの担い手の育成と連携	(2) 担い手の連携の拡充	Park-PFI 事業者による内間木公園の運営	様々な主体との連携による基地跡地公園の運営
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用	機能維持増進事業の活用	多様な手法による財源の確保
	(2) みどり・公園分野における DX の推進	公園台帳のデジタル化	DX の推進による効率的な公園管理
3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(2) 情報発信の強化と充実	自ら情報発信できるオンラインプラットフォームの導入	市民が主体となったみどりの情報発信
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ	グリーントレイルマップの更新	みどり資源を生かした健康増進の場づくり

## 2 計画の進行管理

### (2) グリーンインフラの多面的効用のモニタリング

みどりを単に保全・創出するだけでなく、グリーンインフラの多面的効用が十分に発揮されているかを継続的に把握・検証する必要があります。そのため、定期的な調査や科学的なシミュレーション、市民協働によるデータ収集を組み合わせたモニタリングを実施し、客観的な根拠に基づくまちづくりを進めます。

#### ① モニタリングの実施手法

みどりの量だけでなく、防災や環境調整、コミュニティ形成といったみどりの質や機能を把握するため、以下の手法を用いて多角的なデータを収集します。

表 7-3 モニタリングの実施手法

みどりの調査	おおむね 5 年ごとに実施する緑被率経年変化調査、およびみどりの市民アンケート調査により、みどりの基礎データと市民意識の変化を定点観測します。
科学的シミュレーション	雨水浸透や地表面温度など、目に見えにくい機能については、地理情報システム等を用いたシミュレーションにより数値を算出します。
市民・ボランティアとの連携	市民参加型の生き物調査などを実施し、身近な自然の変化をきめ細かく捉えます。
見える化の推進	収集したデータをもとにグリーンインフラマップを作成・更新し、みどりの機能をわかりやすく可視化します。



あさか環境市民会議が主催する市民参加の野鳥調査  
(写真提供者:あさか環境市民会議)

## ② 分析指標の設定と活用

収集したデータを基に、みどりが持つ多面的効用が発揮されているかを検証するため、下表の分析指標を設定します。これらの指標を用いて、町丁目ごとの詳細な状況を把握し、地域ごとの特性にあわせた施策の検討や、優先的に取り組むべきエリアの特定に活用します。

表 7-4 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量
都市の気温上昇を緩和するみどり	地表面温度 (°C)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (t/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母としたGIタイプで生息が想定される生物指標の数の割合
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における1000㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積
防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における学校や1000㎡以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)	

## 2 計画の進行管理

### (3) 定期的な進行管理と計画の見直し

#### ① PDCA サイクルによる進行管理

これらの分析指標によって得られた結果は、まちづくりの次なる施策へ生かします。例えば、雨水浸透機能が低いエリアでは雨庭の設置を重点化する、気温が高いエリアでは木陰を増やすなど、データに基づいて施策の方向性を修正・決定することで、限られた予算と資源で最大限の効果を引き出す順応的な管理を行います。

また、社会情勢の変化やグリーンインフラの多面的効用の検証結果を的確に反映させるため、「P(計画)－D(実行)－C(評価)－A(改善)」のサイクルにより、継続的な改善を図ります。

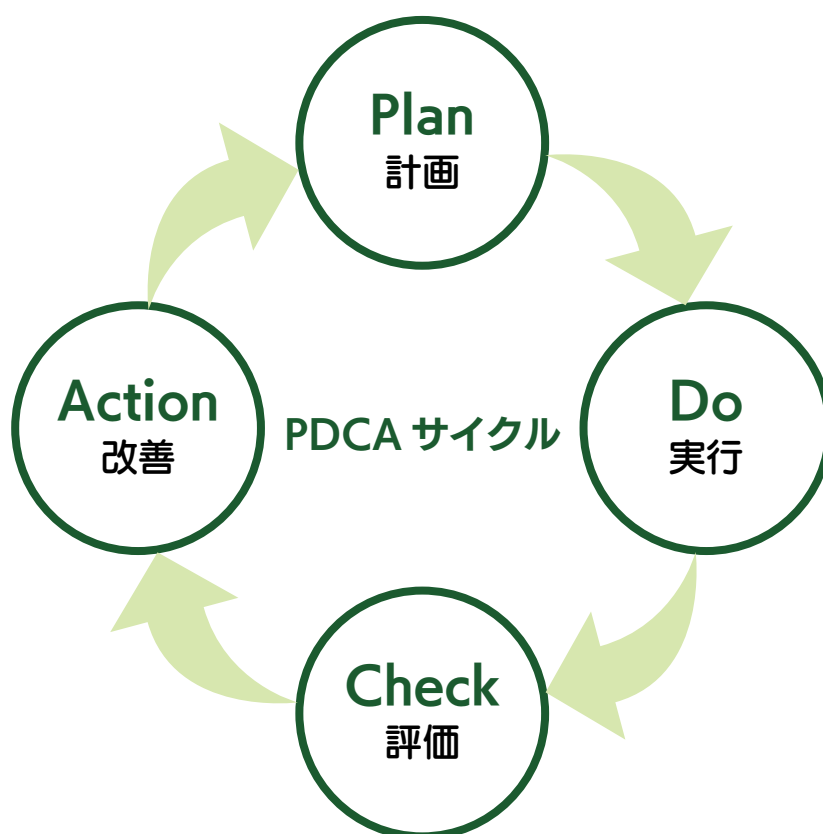


図 7-2 PDCA サイクルによる進行管理

## ② 計画の進行管理と見直し

年度ごとに事業進捗を整理し、朝霞市緑化推進会議において検証を行います。

また、社会情勢の変化や、気候変動の影響、技術革新のスピードに対応するため、調査結果などに基づいて柔軟に計画の見直しを行うローリング方式<sup>37</sup>を採用します。

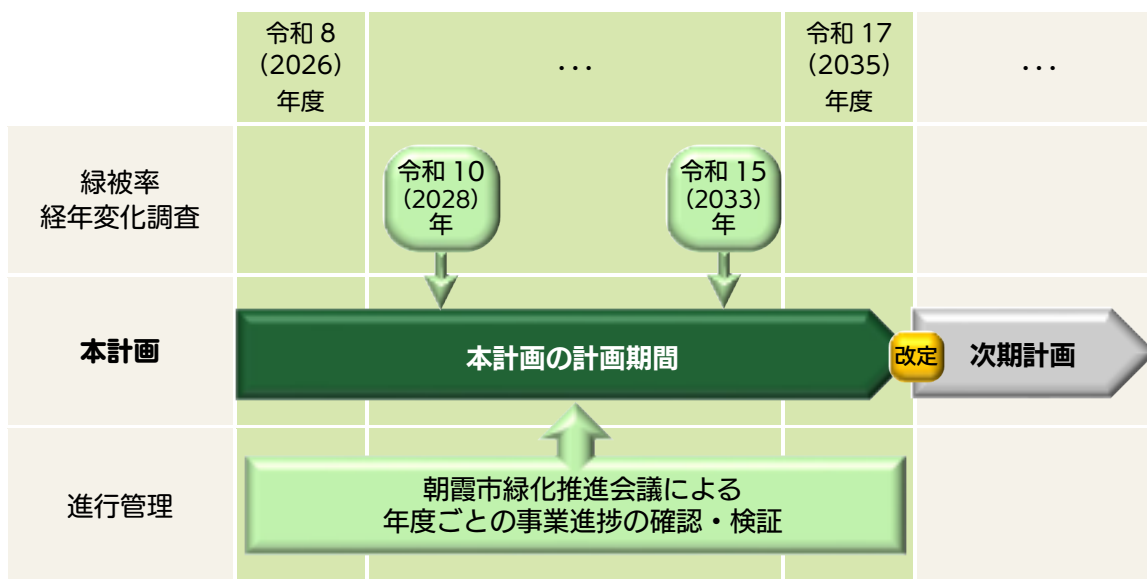


図 7-3 定期的な計画の見直し

本市のみどりの基礎データである緑被率経年変化調査は、5年ごとに実施しており、本計画期間中は、令和10(2028)年度と令和15(2033)年度に実施予定です。この調査により、みどりの量の変化や、施策の効果を客観的な数値として把握します。

計画期間の終盤に実施する令和15(2033)年度の緑被率経年変化調査の結果は、令和18年度以降の次期計画策定に向けた基礎資料として活用します。

また、緑被率経年変化調査の実施にあたっては、技術の進歩やグリーンインフラの分析目的に応じ適切なデータの取得を検討します。

37 計画の策定後、固定的に運用するのではなく、一定の期間ごとに計画内容の見直しを行う手法のことです。社会情勢の変化や、事業の進捗状況、財政状況などを踏まえ、計画と実態との乖離を防ぐために修正・補正を加えることで、計画の実効性を維持・向上させることを目的としています。



基地跡地の空中写真



朝霞調節池周辺の空中写真